



1

アートプロジェクト  
自治体AIR2 金石大野芸術計画

ムン&チョン デザインの  
マンホールの設置

## 金石で滞在制作(AIR)を行ってきた世界的アートユニットの ムン&チョンがデザインしたマンホール完成！金石町内3箇所に設置しました。

自治体 AIR (アーティスト・イン・レジデンス=作家による滞在制作プログラム) 第2弾のレジデンスアーティストとして、2018年から金石で滞在制作を行ってきた韓国出身のアートユニット、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ。この度、金石でのリサーチをもとにデザインしたマンホールを金石町内3カ所に設置しました。

---

プログラム名 ムン & チョン デザインのマンホールの設置

---

日程 2020年3月13日(金) に設置

---

設置場所 1. 金石西3丁目 マルエーmini裏、ユリ美容室前付近  
2. 金石西3丁目 金石町道路元標交差点  
3. 金石西3丁目 コッコレかないわ付近

---

主催 金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]

---

お問合せ 金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

---

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館

事業担当: 池田あゆみ、中田耕市、木村健 広報担当: 石川聡子、落合博晃

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)

※ご取材の際には、事前にご連絡をお願いします。



マンホールの  
設置について

## なぜマンホールか

マンホールは、私たちの生活する地上の世界と、普段は目にすることのない地下の世界を分ける境界にあります。地面にあるマンホールを見ることで、私たちが現在立っている地面、それを下で支える近代社会のシステムに意識を向けることが意図されています。

## 金石でのリサーチをもとにしたデザイン

蓋の表面に描かれているのは、空を見上げた時に見える松の木と雪吊りの縄です。四季を通じて緑の葉をつける松は、過去から未来へと時を経ても変わらないものの象徴でもあります。

道路にあるマンホールを見下ろした時に、頭の上にある空を同時に想像することができるようにデザインされています。

## 時間を越えたメッセージ

松の木とともに、「MY FUTURE WILL REFLECT A NEW WORLD」（私の未来は新しい世界を映し出す）というメッセージが刻まれています。これは、ムン&チョンの過去の作品にも共通して登場する意味深い言葉です。時空を越える旅、そして、世界の美しさの発見は、現在ムン&チョンが進めている金石の四季を撮影した映像作品（今秋完成予定）のテーマともなっています。

## 制作中の映像作品とも関連

マンホールの設置位置は、金石を舞台にした映像作品と関連の深い場所です。このマンホールをたどって歩くと、映像作品に登場する風景を重ねて見ることもできます。



2



3

マンホール  
設置場所

1. 金石西3丁目 マルエー mini裏、ユリ美容室前付近
2. 金石西3丁目 金石町道路元標交差点
3. 金石西3丁目 コッコレかないわ付近



4

自治区AIR  
金石大野  
芸術計画  
(アートプロジェクト)

2017年より始まった、金沢21世紀美術館の新しいプログラム「自治区」。現代美術に限らず科学や音楽など他の領域を横断しつつ、「自治」をキーワードに、ライブ、映像上映、トークなど美術館での展覧会とは違った多様なプログラムを実施し、実験的なアクティビティへと拡張してきました。2018年からは、アーティストと地域が刺激しあい、新しい「何か」が生まれるきっかけとなることを目指して、広坂を飛び出し、金石大野で活動を始めました。

アーティストが滞在し、調査や制作を行うアーティスト・イン・レジデンス (AIR) とパブリック・プログラム (PP) の二つを中心に展開しています。

## プロフィール

## AIR 2:

ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ  
(韓国)

2019年2月～3月、7月～8月

2020年10月(予定)

ムン・キョンウォン MOON Kyungwon

1969年ソウル(韓国)生まれ。※写真右

チョン・ジュンホ JEON Joonho

1969年釜山(韓国)生まれ。※写真左



5

ムン・キョンウォンとチョン・ジュンホによるデュオ。近年、学際的なプラットフォームを作ることに焦点を当てた共同プロジェクト「News from Nowhere」を活動の中心としている。最初のサイトスペシフィックな共同作品を2012年のドキュメントで発表。主な個展に2013年「News from Nowhere」シカゴ美術館附属美術大学、2015年ミグロス現代美術館(チューリッヒ)、「The Ways of Folding Space & Flying」ヴェネチアビエンナーレ 韓国館、2017年「Freedom Village」スカイ・ザ・バスハウス(東京)、2018年～2019年「News from Nowhere」テート・リバプールなどがある。金沢21世紀美術館では、2018年東アジア文化都市2018「変容する家」、2019年開館15周年記念「現在地：未来の地図を描くために [1]」に参加。



6



7

東アジア文化都市2018「変容する家」展示風景  
《Bonjour Monsieur Bon Yamajun》2018  
Photo: KIOKU Keizo © Moon K yungwon & Jeon Joonho



8

開館15周年記念「現在地：未来の地図を描くために [1]」展示風景  
《世界の終わり》2012 金沢21世紀美術館蔵  
Photo: KIOKU Keizo © Moon K yungwon & Jeon Joonho

これまでの  
滞在アーティスト

### AIR 1: 田口行弘(ベルリン在住)

2018年9月～11月(終了しました)

#### 田口行弘(たぐち ゆきひろ)

1980年、大阪府生まれ。東京藝術大学美術学部油画専攻卒業。2005年よりドイツ・ベルリンに活動の拠点を移す。ドローイング、パフォーマンス、アニメーション、インスタレーションが混然一体となった「パフォーマンス・インスタレーション」で近年注目を浴びており、とりわけ公共空間において他者との関わりを誘発する作品は高い評価を得ている。Kunstverein Arnsberg (2015年、アルンスベルグ、ドイツ) などドイツ国内での個展開催のほか、「in your heart and in your city」(2016年、KØ'S Museum of Art in Public Spaces、クーエ、デンマーク)、「Open ART Biennale 2017」(エレブル、スウェーデン)、など世界各地での国際展やグループ展への参加も多い。2018年9月より11月にかけて金石地区に滞在し、地域住民との交流を通して金石海岸に作品を制作した。



9

### AIR 3: 田口行弘、キアラ・チッカレッコ(ベルリン在住)

2019年8月～11月(終了しました)

#### 田口行弘

2018年9月～11月に金石に滞在し、漂流物を集めて浜に「居場所」を制作した田口が、2019年の9月～11月にかけてパートナーのキアラ・チッカレッコとともに金石地区に滞在し、かつて二人がベルリンで建てた小屋の資材を活用し、金石に新たな居場所を制作するプロジェクト「Discuvry in Kanaiwa」に取り組んだ。



10

#### キアラ・チッカレッコ

イタリア・シチリア島で生まれ。カターニア大学で建築学の修士号を修め、ヴィンチェンツォ・ベッリーニ ミュージック・インスティテュートのピアノ科を卒業。2012年にベルリンに移り、建築家として働く。その後ドローイングとイラストレーションを中心に制作を続け、ドイツやイタリア、日本でもこれまでに展示しており、その作品は単なるイメージを超えて、個々が抱える物語が重なり合い、描き出されている。ベルリンでの「discuvry」、金石での「Discuvry in Kanaiwa」プロジェクトで、田口行弘の共同制作者として、構造設計や意匠等の面から関わっている。

広報用画像

画像1～10を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

[https://www.kanazawa21.jp/form/press\\_image/](https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/)

[使用条件]

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。